

【理念】

主に難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療・保健・療育・福祉サービスの県の中核機関として、安心・信頼・満足の得られる医療・ケアの包括的なサービス提供を行います。

【基本方針】

- 高度な専門知識と技術の向上に努め、良質で安全な科学的根拠に基づいた医療を、十分な説明と納得の上で提供します。
- 地域の医療、保健、療育、福祉、教育機関との機能分担・連携を図ります。
- 小児の医療、保健、療育、福祉にたずさわる専門家の育成、学生教育への協力および臨床研究を通じて、県下の小児保健医療の発展と向上に貢献します。
- 県立病院の使命としての政策医療を推進します。

診療科等のご案内

◆ 診療科目

小児科（総合内科・神経内科・アレルギー科）
精神科（こころの診療科）、整形外科、小児外科、眼科
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

◆ 外来

予防接種、肥満、発達障害、ダウン症
臨床遺伝カウンセリング

- 内科系：頭痛、心臓内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ科
- 外科系：泌尿器科、脳神経外科、形成外科

◆ 病床数 100床

ご利用案内

◆ 外来診療

- 小児科（総合内科）を除き、原則として予約制です。
- 診療時間 午前 9時00分～午後 5時00分
- 予約受付時間 午前 8時30分～午後 5時00分
- 休診日 土・日・祝日・年末年始

◆ 初診時の注意点

- 0～18才未満の方を対象としています。

◆ 初診時に持参いただくもの

- 保険証（国保・協会健保・共済等）：受診時毎月提示してください。
- 母子健康手帳（乳幼児の場合・こころの診療科受診の場合）
- 医療券（公費負担をご利用の場合）

★予約直通電話：077-582-8425★

小児科（総合内科）は予約なしで受診していただけます。
診療受付は午前11時30分（月～金）までです。

地域医療連携室ご利用案内

- 受付時間 月曜日～金曜日
午前9時00分～午後4時30分
（土、日、祝日、年末年始は除く）
- 直通電話 077-582-6222
- FAX番号 077-582-6276



(平成28年1月発行 Vol.21)

発達症について

「こころの診療科」を受診されるお子さんの多くが「発達症」の特性を持っています。受診のきっかけは様々です。どこにも異常が見つからない体の不調、友達付き合いが苦手、学校に行けない、ささいなことでかんしゃくを起こす、家以外ではしゃべらない、など。しかしよく見ると、それらの背景にはなんらかの生きづらさがあり、さらにその奥に本人の生来の物の見方や考え方の特徴、すなわち（脳の）発達特性があることがわかります。この発達特性のことを発達症と言います。

「発達障害」という言葉はマイナスイメージが強く誤解を招くこともあるので、最近は発達症と言われることが多くなってきました。それを生まれつきの脳の働き方のタイプと考えると、必ずしも「障害」ではありませんし、治療すべき病気でもありません。生きていくなかで、周囲と摩擦を生じ、不具合が生じた時に「障害」となるのです。その不具合は様々な形の症状となって現れます。

発達症のなかでも私たちが接する機会が多いのが「自閉症スペクトラム」です。おおまかにいえばコミュニケーションや人付き合いを臨機応変に行うことが不得意で、自分の思い通りに物事が進むことにこだわりやすいタイプの人です。この特性は強みとなることもあれば、弱みとなることもあります。弱みが強調され環境への不適応をきたした時、心のバランスが崩れます。治療が必要なのはこのバランスの崩れであり、心のバランスの崩れを修正し予防する手立てが「支援」です。こころの診療科の仕事はこの修正や予防のお手伝いをするということとよいでしょう。

（こころの診療科 華園 力）

『斜視じゃない斜視』について

斜視という名前を皆さんは1度ならず耳にしたことがあると思います。

何となく“目線があってないことかな？”とイメージはできるものの、実は結構勘違いが多いのが実情です。今回は勘違いの代表格、偽(仮性)内斜視についてお話しします。

偽(仮性)内斜視とは書いて字のごとく“偽物の”内斜視です。斜視と診断するときに、我々はカバーテストという検査をします。眼はカバーされる(隠される)と自分の本来の位置に動きます。その位置が中心より内側(鼻側)なら内斜視、外側(耳側)なら外斜視というわけです。この検査ができれば話が早いのですが、手慣れた検査員でないと難しいものです。

そこで、家庭でもっと簡単に斜視を見極める方法があります。

正面から顔の写真を撮りましょう。もちろんスマホでもiPadでも構いません。

ポイントはフラッシュをたいて撮ることです。そうするとフラッシュの光が反射して瞳に光の点が映ります。これは角膜反射といって眼の頂点を表します。



こちらは内斜視っぽいと受診された患者さんですが、角膜反射が両目とも中心にあるのがわかりますか？これが偽(仮性)内斜視です。実際は正位(内斜視ではない)なので、治療も必要ありません。

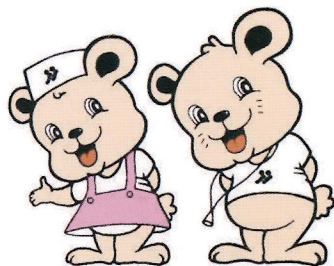


対してこちらは右眼がほぼ中心にあるのに、左眼の角膜反射は鼻側に(実際の眼球は耳側に動いているということ)ついていきます。

この方は外斜視です。手術をはじめとした治療を考える必要があります。

是非お家で試してみてください。

(眼科医 江田 祥平)



24時間脳波について

脳波検査はてんかんの診断をする上で重要な検査です。また、てんかんの発作をとらえる事は非常に大切です。しかし発作は突然起こり、また夜間にのみ出現するなど、実際のところ観察は難しいのが実情です。

当センターでは、テレメーター脳波計を用いて、ビデオで発作の様子を観察しながら同時に脳波を記録する検査が可能で、一泊入院で長時間記録を行っています。発作時の様子と脳波から、てんかんのタイプを診断します。

実際には、13個の血電極を頭全体に装着し、電極が外れないようにネット包帯をかぶってもらい、さらに包帯を巻きます。両肩に筋電図用の電極も装着します。リュックサックに入れた送信機は常に傍に置いてもらい、移動するときはリュックサックもいっしょに移動します。病棟内は移動可能でトイレやプレイルームも利用できます。

小さな子どもはじっとしていません。泣く、あばれる、汗だくになり、付けた電極もすぐに外れてしまいます。時には電極を引っ張って取ってしまう子もいて、最初からやり直すこともしばしばです。そのため、なだめたり、気をひいたり、ご家族に抱っこしてもらうなど、落ち着かせながら、検査技師二人がかりで素早く装着することに努めています。

検査科は、少しでも子どもたちの負担が和らぎ、きれいな脳波がとれるよう、そしててんかん診断に貢献できるよう努力しています。

(検査科)



わがセンターのボランティアさん



《大正琴なごみ会》

大正琴演奏で、地域に貢献するボランティアとして平成19年に8名で結成し、現在に至っています。

心通い合うメンバーと和気あいあいの雰囲気の中、童謡・唱歌・歌謡曲・演歌・フォークソングなど様々なジャンルに挑戦して楽しんでいます。

福祉施設・介護施設・自治会などに出向き、大正琴の音色に合わせて一緒に歌ってもらい喜んで頂いています。

これからも、大正琴の美しい音色で一人でも多くの方に心癒して頂けるよう、聞いて下さる皆様に感謝の気持ちを忘れず、メンバー全員力を合わせて頑張ります。

《KEIKO》

いつもピアノ演奏に拍手をいただきありがとうございます。心から感謝しています。音楽で皆様とのつながりが築けることを嬉しく思います。一人でも多くの方の笑顔が見たいです。これからもよろしくお願いします。

